

# 千葉市のキャリア教育

～生涯を通じたキャリア発達の支援に向けて～

平成 29 年 3 月

千葉市

## 目 次

### I はじめに

### II 発達段階に応じたキャリア教育

- 1 小学生・中学生の段階
- 2 高校生の段階
- 3 大学生・専門学校生の段階
- 4 社会人の学び直し等

### III 参考

- 1 キャリア教育推進連携会議 委員名簿
- 2 キャリア教育推進連携会議 協議の記録
- 3 生涯を通じたキャリア教育のイメージ図

## I はじめに

子どもたちが将来就くことになる職業は、技術革新・グローバル化の進展等の影響により大きく変化することが予測されており、今の子どもたちの65%以上は、存在していない職業に就くと言われていています。子どもたちが、大人の私たちが想像もしない世界で生きていくということを前提に、将来、子どもたちが社会に出たときに、真に役立つ力を身に付けることのできるような教育を展開する必要があります。子どもたちが「今学んでいること」や「これから学ぶこと」が、社会や職業とどう結び付いているのかを考え、発達段階に応じてその理解を深めていくことが重要です。

また、将来の本市の経済、地域産業を支える人材の育成・確保という観点から、市長と教育委員の協議の場である「総合教育会議」において議論を重ね、経済部を中心とした市長部局と教育委員会や教員等の学校関係者だけではなく、大学や企業等と連携して、雇用等の社会ニーズを踏まえた「キャリア教育」を展開することが重要であることが確認されました。

そこで、「キャリア教育推進連携会議～千葉市を担う人材育成プロジェクト～」を市長部局と教育委員会が設置し、小・中・高等学校の教員はもちろん、大学や専門学校、市内の企業や千葉労働局の方々にそれぞれの立場から意見を述べていただきました。それらの意見を踏まえ、「将来の千葉市を担う人材育成」という観点から、発達段階ごとに新たなキャリア教育の在り方、今後の取組みの方向性等について、「千葉市のキャリア教育～生涯を通じたキャリア発達の支援に向けて～」としてまとめました。

今後、このまとめを生かし、市内の教育関係者のみならず、市民・団体・企業・大学など、様々な方々が、一定の共通理解のもとで、生涯を通じたキャリア教育の推進に携わっていただけることを願います。

## (参考) キャリア教育の推進に関する考え方

### 「千葉市の教育に関する大綱」(平成28～33年度)

- ・市民の生活基盤確立と都市を支える人材の育成・確保のため、経済部門等と連携し、雇用等の社会ニーズを踏まえた取組みが進むよう、職業体験や進路指導體制の充実など、教育課程でのキャリア教育の見直しを進めます。
- ・加えて、実社会に出た後に知識や技術を身に付けることができる環境を整えるなど、市民への生涯を通じたキャリア教育を推進します。

### 第2次学校教育推進計画

(平成28～33年度)

#### 1 確かな学力を育てる

##### 1-2 未来へ飛躍する力の育成

#### 2 豊かな人間性を育てる

##### 2-2 社会的自立に向けた強い心の育成

#### ※社会ニーズに応じたキャリア教育の推進

社会的・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を育てるため、児童生徒の発達段階に応じ、一人一人が自己の進路・将来を主体的に考える小・中・高等学校を一貫した体系的・系統的なキャリア教育\*を実践します。

特に、産業界など社会のニーズを捉える仕組みを確立し、これからの時代に求められる人物像や資質・能力の育成を図ります。

### 第5次生涯学習推進計画

(平成28～33年度)

#### 2 多様な学習機会の確保

##### 2-2 市民ニーズに対応した学習機会の提供

就業前の児童・生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を育てるとともに、地域の企業等の事業への理解を深めてもらうために、職業に関する学習や職場体験等のキャリア発達を促す体験活動を地域の様々な機関と連携して行います。

また、大学、専門学校等の高等教育機関と連携して資格取得のための講座等の情報提供やeラーニングを活用した就労や学び直し・キャリアアップに寄与する学習機会の提供など、個人生活の向上と共に、市民生活や地域産業経済を支える人材の育成にもつながる、キャリア教育を推進します。

### (参考) 平成29年度 千葉市学校教育の課題「21世紀を拓く」(千葉市教育委員会学校教育部)

#### キャリア教育・進路指導の目標

- 自己の進路・将来を主体的に考えることができる力を育成する指導の充実を図るとともに、社会的・職業的自立を目指し、児童生徒一人一人のキャリア発達を促す教育活動の充実を図る。

#### キャリア教育・進路指導の方針

- 小学校・中学校におけるキャリア発達

小学校：(進路の探索・選択にかかる基礎形成の時期)

自己及び他者への積極的関心の形成・発展、身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上、夢や希望・憧れる自己イメージの獲得、勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成に努める。

中学校：(現実的探索と暫定的選択の時期)

肯定的自己理解と自己有用感の獲得、興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成、進路計画の立案と暫定的選択、生き方や進路に関する現実的探索に努める。

※本まとめに基づく事業の実施・推進にあたっては、「学校教育推進計画」や「生涯学習推進計画」等のアクションプランとして位置付けることとしています。なお、毎年度の予算編成により、その事業量は調整を図っていきます。また、特別支援学級・特別支援学校等に係るキャリア教育については、「千葉市における特別支援教育の在り方等検討会議」で策定予定の推進計画に定めることとしています。

## Ⅱ 発達段階に応じたキャリア教育

### 1 小学生・中学生の段階

#### [現状と課題]

- 小・中学生の段階では、特定の知識や技能を身に付けるというよりも、基礎的な学力を身に付けるとともに、自ら課題を見つけて主体的に行動する意識や、挨拶や感謝の気持ちを伝える等の基本的なコミュニケーション能力を身に付けることが重要である。
- 小学生の段階では、身近な人や社会とのかかわりの中で、役割分担をして社会が成り立っていることを理解することが大切であり、「地元にはこんなことがある」「こんなすごい企業、すごい人がある」と感動する体験を通じて、子どもが将来のことを考えるきっかけとなることも多い。
- 中学生の段階は、興味関心に基づく職業観・勤労観を形成する時期であるとともに、職場体験の体験先や進路先を含めて、生き方の暫定的選択を行う時期でもある。社会情勢についても理解できる年齢であることから、個々の興味に応じて、個別の職業の実態等について最新の情報を得られるような環境を提供することにより、進路選択の幅が広がることが期待できる。
- 小・中学校を通じて学校全体でキャリア教育の目的を共有し、各教科等でキャリア教育の視点をもって小さなことでも継続的に取り組むことが重要であり、教育課程を見直し、点検・改善していく必要がある。

#### (小学校での体系的なキャリア教育について)

- 小学校では発達段階に応じて、自己や他者、身の周りの仕事や環境への関心・意欲を高め、夢や希望・憧れる自己イメージの獲得や勤労を重んじる態度の形成に努めることを目標に、各教科等の中でキャリア教育の視点をもって体系的なキャリア教育を実施する。

#### (中学校での職場体験について)

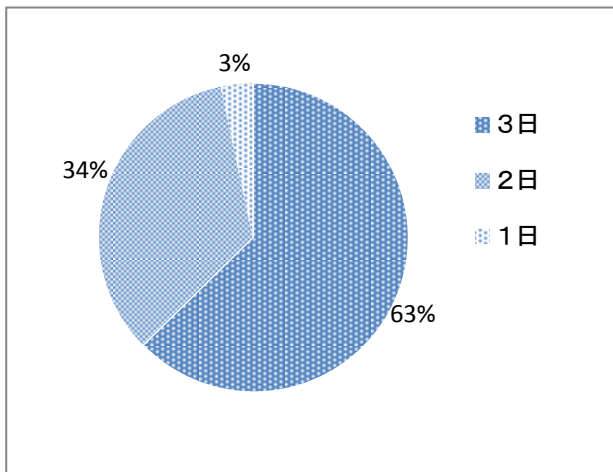
- 中学校における職場体験については、全ての中学校で3日以上行うことを目標として取り組んでいるが、他の行事との調整で全校では実施できていない状況である。
- 学校が中心になって体験先を探しているが、交渉にかなりの時間がかかること、体験先が広がらないなどの課題があり、今後、教育委員会等の役割を含めて職場体験全体の在り方を見直すことが必要である。
- 体験内容や方法については、改善例として次のような方法も挙げられる。  
(例)・危険を伴う業種は体験できないと除外するのではなく、顧客対応業務や広報業務など、中学生でも体験できる業務を検討する。

○職場体験については、体験のねらいや目的を事前に体験先と共有するなどの事前の準備によって学習効果は大きくなる。また、体験内容や方法については、次のような改善・工夫の余地がある。

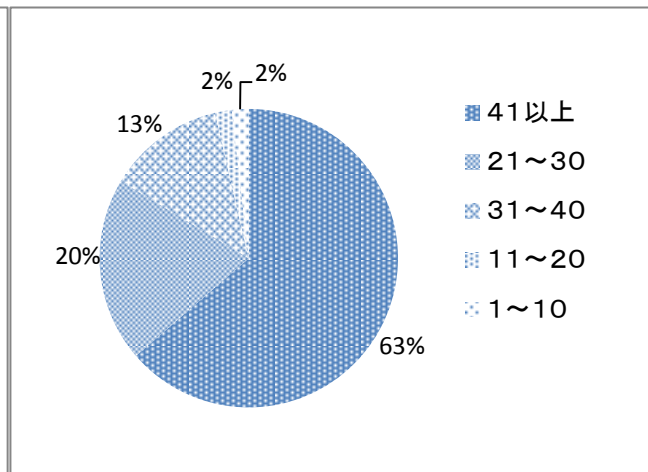
- ・危険を伴う業種は体験できないと除外するのではなく、顧客対応業務や広報業務など中学生でも体験できる業務はあること。
- ・生徒が職場に出向いて体験するだけでなく、学校に社会人を招いて体験する方法も考えられること。
- ・ひとつの作業だけを体験するのではなく、例えば製造から流通までのつながりを学習することで、職業に関する視野を広げることができること。

○今後、体験先の確保など学校だけで対応できない課題も多く、教育委員会等の役割を含めて職場体験全体の在り方を見直す必要がある。

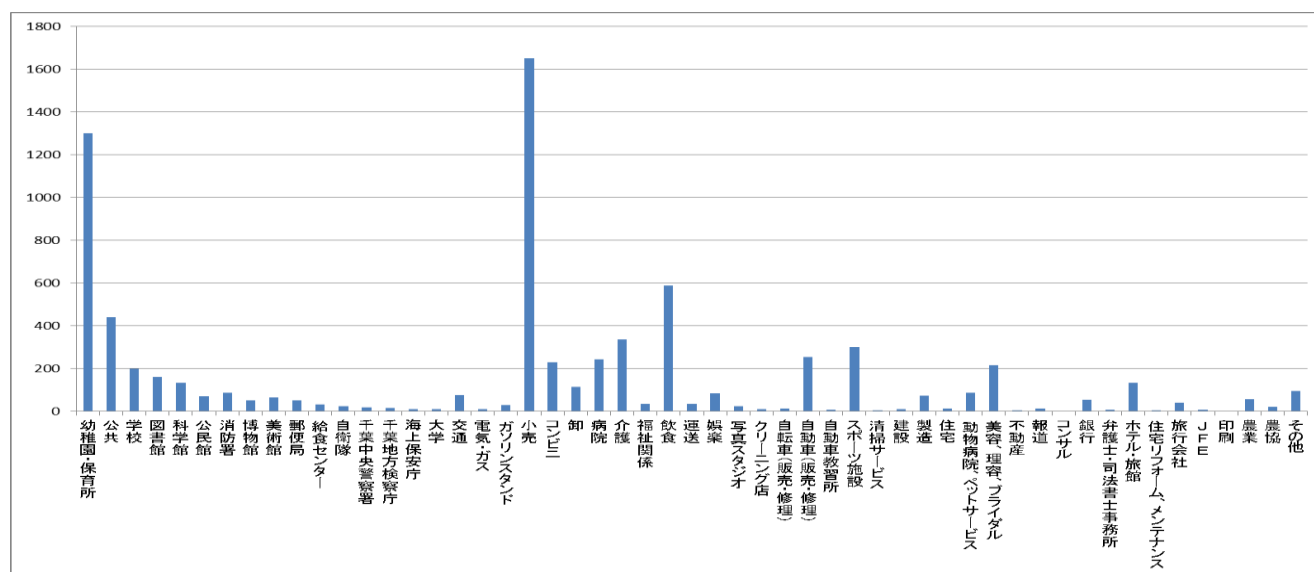
■職場体験の日数（55 中学校）



■1校当たりの体験先の事業所数



■職場体験の場所と人数（体験した生徒数 計7,888人の内訳）



(中学校での進路指導)

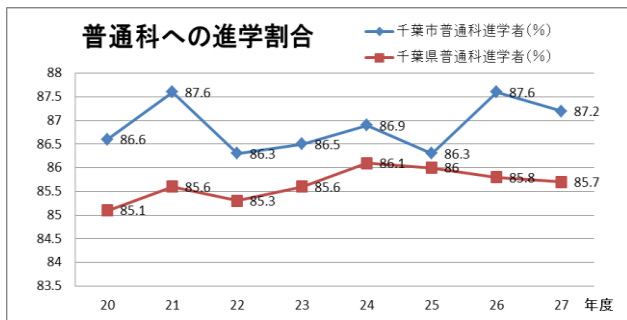
○中学生が進路選択をする際には、保護者や教員、塾などから得る様々な情報を元に選択することになるが、具体的な将来設計が立案できないまま普通科を選択する生徒もいる。

○専門高校や専門学科については、例えば高卒の就職率は普通科に比べて高い実態など、保護者や教員が十分に情報を持っていないことも多い。また、一般的に専門高校・専門学科においては、普通科に比べて退学者の割合が多く、入学後のミスマッチを防ぐためにも、例えば、千葉工業高校の理数工学科のように、大学進学を意識した高等学校の専門学科もある等、教員や保護者に最新の専門高校の実態を知ってもらうことが重要である。

■千葉県内の専門高校・専門学科の志願倍率の推移

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
農業	1.43	1.39	1.61	1.53	1.35	1.03	1.42	1.15	1.27	0.92	1.13	0.57	1.09	0.70
工業	1.40	1.31	1.41	1.37	1.39	1.26	1.30	1.12	1.36	1.22	1.13	0.74	1.11	0.96
商業	1.42	1.18	1.46	1.43	1.48	1.32	1.32	1.27	1.40	1.32	1.17	0.84	1.32	0.90
水産	1.14	0.81	0.99	0.84	0.82	0.40	1.02	0.81	0.59	0.23	0.60	0.29	0.63	0.14
家庭	1.58	1.63	1.72	1.69	1.60	1.83	1.78	1.73	1.49	1.33	1.30	0.50	1.44	0.33
看護	2.11	2.75	1.78	1.63	2.56	2.63	1.84	1.81	1.66	2.00	1.88	—	2.15	—
福祉	1.91	1.50	1.41	1.13	1.69	1.25	1.28	0.88	1.41	1.63	0.93	0.67	1.15	—
情報	1.95	1.55	1.62	1.40	1.98	2.00	1.86	1.55	1.83	1.81	1.76	—	1.71	—
総合	1.24	0.85	1.15	0.89	1.23	0.95	1.21	1.41	1.10	0.77	1.26	1.11	1.32	1.20

■学科別進学状況～千葉県内全体と本市の比較～（「進路状況調査」千葉県教育委員会等より）



高等学校(全国)の学科別生徒数の割合

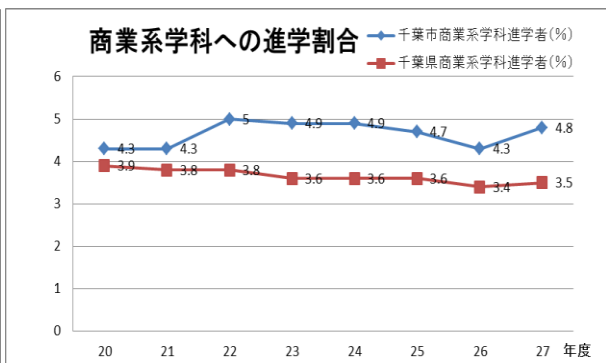
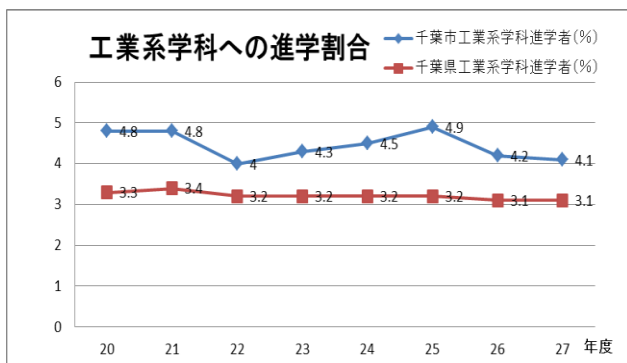
普通科の生徒割合：72.8%

工業科の生徒割合：7.7%

商業科の生徒割合：6.1%

(「学校基本調査(H27年度)」より)

[参考]



■全国の全日制普通科・専門学科中途退学者数・退学率

	年度	H24	H25	H26	H27
普通科	退学者(人)	24,552	23,924	21,260	19,558
	退学率(%)	1.0	1.0	0.9	0.8
専門学科	退学者(人)	11,809	11,389	9,248	7,990
	退学率(%)	1.6	1.6	1.3	1.1

(出典)「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」  
結果速報値 平成28年10月27日(木)

(教員の資質・能力の向上について)

○教員が最新の「キャリア教育」について学んだり、様々な情報を得たりする機会の確保や、社会のニーズや職業に関する情報を収集できる能力を身に付けさせる場の設定が必要である。

(学校教育以外でのキャリア教育について)

○学校教育だけではなく、放課後等の教育課程外での活動も重要である。学校以外で、小学生や中学生が身近な「先輩」に話を聞く機会や、仕事について興味を持ったときに、それに関する情報を収集できるような環境づくりが重要である。

【具体的な方策】

### 1 点ではなく線としてつながったキャリア教育を展開する

- ・本まとめに準じ、「キャリア教育ガイドブック (H19年度)」を改訂し、系統性のある小・中学校のキャリア教育のモデルプランを作成する。 [H29: 314 千円] 教育センター
- ・発達段階や学校等の実情、地域等の特色ある活動を行うとともに、モデルプランを参考に、各教科等でキャリア教育の視点をもって、小さなことでも継続的に取り組む。 学校

### 2 キャリア教育主任研修会を開催し、新たなキャリア教育の指導計画を立案・実践する

- ・学校全体でキャリア教育の目的を共有し、当該年度の重点目標を設定する。 [H29: 20 千円] 教育指導課、教育センター、学校
- ・学校教育全体を通して身近な人や社会とのかかわりの中で、役割分担をして社会が成り立っていることを理解させ、さまざまな地域の人材、企業等の存在に気づかせる。 学校
- ・学校教育全体を通して実社会における課題などをもとに探求型・課題解決型の学習を充実させ、現在の学習が実社会で生かされることを理解させる。 学校



- ・実際の雇用などの社会状況や職業の世界について、教員や児童生徒が話を聞く機会を設け、将来の職業選択として実現可能な選択肢をもつ。 **学校**

- ・産業界等の助言を受け、進路学習ノート「わたしの夢」（1・2年生用）、進路選択の手引き「ハロー マイ フューチャー」（3年生用）、工業高校専門学科紹介資料「次世代技術者を育成する」、保護者用資料「子供と共に考える資料」（1年・2年・3年）の内容を見直す。

[H29 : 2,153 千円] **教育指導課**

### **3 小・中学校における職場体験等の在り方を産業界との連携体制をもとに見直す**

- ・学校関係者、企業・産業界関係者、有識者を構成員とするキャリア教育推進連携会議を引き続き開催し、職場体験等の在り方の見直しの検討を行う。

[H29 : 324 千円] **教育指導課、経済企画課**

- ・千葉労働局と本市との雇用対策協定に基づき、連携を強化し、ものづくりに関わる企業等の情報をリスト化し学校に提供するなど学校が職場体験先の確保に役立つ情報をへ提供する。

**経済企画課、教育指導課**

- ・生徒が職場を訪問して実施する職場体験だけではなく、学校に講師等を招いてその人の職業について教えてもらう「手づくりみらい教室」「ものづくりマイスター」など、職業能力開発協会等と連携した事業等を積極的に活用し、いろいろな職業観に触れられるようにする。

[厚生労働省関連] **教育指導課**

- ・職場体験学習の目的に照らし、未来の社会への参画、将来における自己実現につながるよう、事前事後の学習を改善する。 **学校**

- ・キャリア教育に関わる活動について振り返る時間を設け、記録を整理していくことで児童生徒自らが成長を実感できるようにし、自己有用感を高める。

**教育指導課、学校**

■全国学力・学習状況調査の結果における比較

「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思うか？(対児童生徒)

1. 当てはまる 2. どちらかと言えば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない  
4. 当てはまらない 5. その他 6. 無回答 (%)

公立小学校	1	2	3	4	5	6	公立中学校	1	2	3	4	5	6
千葉市	37.8	42.5	14.9	4.4	0.1	0.4	千葉市	22.1	45.6	23.5	8.6	0.0	0.1
千葉県	39.8	42.9	13.2	3.7	0.0	0.4	千葉県	23.2	47.2	22.0	7.5	0.0	0.1
全国	41.6	41.6	12.7	3.5	0.1	0.5	全国	25.8	47.0	20.0	6.9	0.0	0.3

出典:平成28年度全国学力・学習状況調査

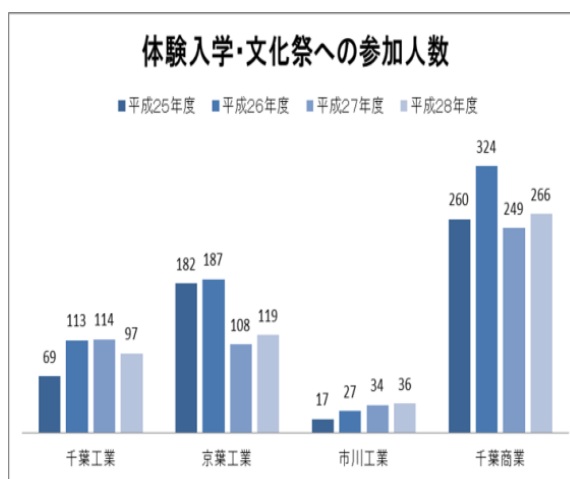
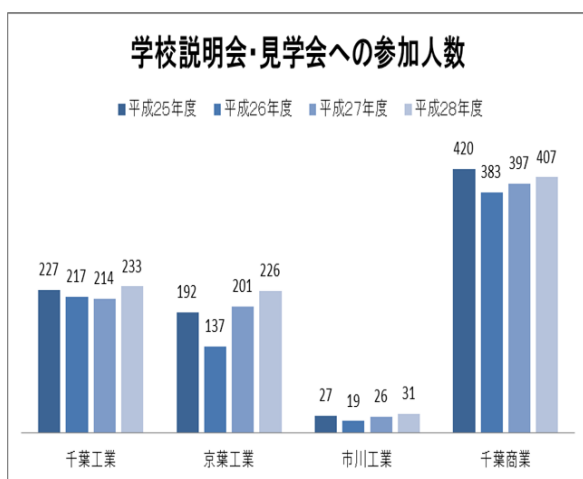
※「総合的な学習の時間」以外にも、学校教育全体を通してでの教科・科目において職場体験や進路説明等のキャリア教育が実施されている。

4 普通科以外の進路先についての十分な情報提供を行う

- ・普通科志向が強い保護者・生徒が多い中、幅広い進路選択が可能となるよう、「わたしの夢」「ハロー マイ フューチャー」を活用して、計画的な進路指導を行う。
- 特に、さまざまな雇用形態のメリットやデメリット、進学の実選基準などについて考え、市内や県内に関する具体的な情報を収集し、生徒や保護者に伝える機会を設ける。

教育指導課、学校

■主な専門高校における学校説明会等への本市生徒の参加状況



- ・進学先での不適応が起こらないよう生徒や保護者に体験入学や学校説明会への参加を促す。特に、情報が不足する傾向にある専門高校については、キャリア教育主任研修会等を通じて、教員が最新情報を得られるような仕組みを構築する。

教育指導課、学校

- ・中学校教員の研修を専門高校で行うことを通じて教員の専門高校への理解を深めることや、普通科以外の選択肢について具体的に中学生に伝える機会を充実させる。

(例) ・専門高校の生徒が出身中学校を訪問し、後輩である中学生に伝達する場を設ける。

- ・中学生の専門高校の公開授業への参加を積極的に促す。

教育指導課、学校

## 5 キャリア教育を担う教員の資質・能力の向上を図る

- ・普通科だけでなく、専門高校の教育内容や就職状況等についての理解を深めるために、教員研修等において高校との連携を推進する。また、県内企業との連携について検討する。

教育指導課

- ・教職経験 11 年目の教員を対象とした「社会体験研修」について、民間教育事業者を活用し、実践的な「キャリア教育」を推進することのできる教員を育成するための「課題解決型」の研修プログラムを開発する。また、社会体験研修の受け入れ先の拡大を図る。

教育センター

- ・教員が学校以外の職場の文化や働き方を理解、体感できる機会を確保する手段として、教育委員会と市長部局との人事交流を充実させる。

教育職員課

## 6 放課後等を利用した教育課程外でのキャリア教育の機会を充実する

- ・「西千葉子ども起業塾」として、千葉大学教育学部と連携し、小学生を対象に起業を体験する講座を開催する。子どもたちは事業計画の作成や、模擬通貨の出資や融資を受けて起業し、会社の清算までを行う。このことで、金融などの経済の仕組みや、チャレンジ精神・創造力の大切さを学ぶ。【ちばっ子商人育成スクール（キッズ・アントレプレナーシップ教育の推進）】

[H29：100 千円] 経済企画課

- ・「中学生のための起業体験講座」として、東京情報大学と連携し、中学生を対象に起業を体験する講座を開催する。子どもたちは、会社設立、事業計画の作成、出資金の獲得、事業実施、会社清算までを現金を用いて行う。講座では、経営者の講義などもあり、将来選択の中に起業するということを意識させ、将来の産業人材の育成につなげる。【ちばっ子商人育成スクール（キッズ・アントレプレナーシップ教育の推進）】

[H29：100 千円] 経済企画課

- ・「夏休みおしごと感動体験ワクワクワークデー」として、敬愛大学と連携し、中心市街地の大型店や専門学校、事業所等との協働により、小学生に楽しみながら多様な職業体験をしてもらい、自分が将来、やりたい仕事について考える機会を提供する。【ちばっ子商人育成スクール（キッズ・アントレプレナーシップ教育の推進）】

[H29：2,076 千円] 経済企画課

・「放課後子ども教室」事業において、教育委員会に総合コーディネータを配置し、企業や大学等の協力を得て多様なプログラムを開発する中で、子どもたちが将来の職業について考えるきっかけとなるようなプログラムの提供を行う。 [H29：54,331千円]生涯学習振興課

・「未来の科学者育成プログラム」や「千葉市科学フェスタ」において、小・中学生や高校生が「研究者」を自らのキャリアモデルの一つとできるよう、実際の研究者との交流の機会を設けるなどの取組みを行う。 [H29：504千円]生涯学習振興課

※未来の科学者育成プログラム関係予算のみ

## 2 高校生の段階

### [現状と課題]

○市立高校においては、小・中学校で積み上げてきた職場見学や職場体験での経験が、高校での学習活動に十分につながっておらず、目的意識を持たないまま高校生活を送る者もいる。そこで、地域の課題をテーマにした学習やインターンシップの充実など、実社会とのつながりを意識しながら自らの進路を模索できるような環境づくりが必要である。

○専門高校・専門学科については、卒業後に就職する生徒が多いことから、市内企業との連携を強める等、地元への就職率を維持・向上させるための方策について検討が必要である。

### 【具体的な方策】

#### **1 市立高校において課題解決型の学習やインターンシップの充実を図り、社会参画意識を**

##### **醸成する**

- ・市立高校では「総合的な学習の時間」等を活用して、千葉市の市政課題や市内企業が抱える課題等を題材にした課題研究を行い、実社会とつながった学習を進める。 **教育指導課、学校**
- ・課題研究でのフィールドワークなどを通じて、市職員や市内企業、大学等と交流することで、社会の一員として主体的に考え、行動する力を育成する。 **教育指導課、学校**
- ・市立高校においてインターンシップの教育課程上の位置付けについて検討し、事前事後の学習を充実する。 **教育指導課、学校**

#### **2 県立高校と市内企業との連携を推進する**

- ・経済的な理由で専門高校への入学を諦めることのないように支援する方策や、県立高校と連携して普通科の卒業生の就職率を向上させる方策を検討する。 **教育指導課、経済企画課**

#### **3 教育課程外でのキャリア教育の機会を充実する**

- ・「幕張新都心ビジネススクール」として、神田外語大学と連携し、高校生を対象としたビジネス体験講座を開催する。規模の大小を問わず、幕張新都心に進出する企業の経営者や若手社員との交流などを通じて、新進のビジネスを体験させることにより、将来の進路選択や、市内での起業のきっかけとなる機会を提供する。【ちばっ子商人育成スクール（キッズ・アントレプレナーシップ教育の推進）】 **[H29：100千円] 経済企画課**

### 3 大学生・専門学校生の段階

#### [現状と課題]

- 大学への進学率が高まる中で、将来の目標を明確にできないまま大学や学部を選択し、入学してきている学生も多い。「大学の授業が社会とどうつながっているのかよく分からない」という学生に対して、大学で学んだ知識を組み合わせ、それを実社会にどう還元していくのかを考える取組みが必要である。
- 専門学校では、企業連携を進め、経営の視点やコスト意識など企業のニーズにあったカリキュラムを検討するなど、就労を見据えた教育を展開していくことも必要である。
- 大学、専門学校に関わらず、県内出身の学生は卒業後、都内で就職する者も多い。一方で「市内にどんな会社があるのか分からない」という学生の意見があるため、本市の各種支援事業を活用しながら、インターンシップなどの改善を図り、企業の業務内容を知ってもらうことで本市の産業人材の育成に寄与していく必要がある。

#### 【具体的な方策】

#### **1 大学や専門学校で行われているキャリア教育を推進する**

- ・大学や専門学校で行われている先進的なキャリア教育の取組みについて、小・中学校関係者、企業関係者に広く周知するなど、大学や専門学校のノウハウを各発達段階でキャリア教育に関わる者で共有する。 **教育指導課、経済企画課**

#### ■具体的な事例

[敬愛大学]

- ・グループワーク主体の授業を体系的に実施して、社会人基礎力と業界職種に係る知識を習得。
- ・学部や学科などの特色ある活動を踏まえ、視野の拡大に努める。
- ・「将来自分はどうしたいのか」「どのような力が必要なのか」「その力は具体的にどのような力なのか」などを入学後の早い段階で考えさせ、自らキャリアを形成していく力を高める。  
課題例：「学生に必要なチームワーク力と、社会人として働くためのチームワーク力の違い」

#### **2 インターンシップをはじめとしたキャリア教育の取組み拡充のため、企業等との連携を深める**

- ・インターンシップ等、就労を見据えたキャリア教育の拡充のためには、企業等産業界の協力・連携が不可欠なため、参画企業の充実を図る。 **経済企画課**
- ・企業参画によるキャリア教育の質・量の向上を図るために、企業を対象としたインターンシップの受入方法等を学ぶ「インターンシップ促進事業」を実施する。 **経済企画課**

- ・企業による業界・企業の魅力を学生に伝えるノウハウの蓄積のために、インターンシップ受入後の「振り返りセミナー」を実施し、キャリア教育に係るPDCAサイクルによる質・量の向上を図る。

経済企画課

### **3 企業等との協力・連携により、大学や専門学校のインターンシップ等を支援する**

- ・業界・企業の魅力を学生に伝えるために、インターンシップのマッチング会として「合同企業説明会」を開催し、企業と学生の直接対話会を実施する。

経済企画課

- ・「企業見学バスツアー」を開催し、企業等の仕事の現場の見学と若手社員との交流を通じ、地元企業の魅力を理解する機会の提供をする。

経済企画課

- ・県内大学、産業界及び本市で「千葉県インターンシップ推進委員会」を構成し、県内大学の特色を生かしたインターンシップの取組みの拡充を図る。

「インターンシップ推進委員会」において、企業・学生参加のもと、インターンシップのマッチング会を行うほか、インターンシップの成果報告会としてインターンシップフォーラムを開催する。また、委員会において、先行事例を有する関係者を招聘し勉強会を行うなど、より一層のインターンシップの取組み拡充に向けた検討を進める。

経済企画課

## 4 社会人の学び直し等

### [現状と課題]

- 企業によっては、企業内に通信教育の受講制度や海外研修など、学び直しやスキルアップの機会がある。例えば、建設業界では、技術者に対して、技術をポイント制で習得する仕組みがあるなど、仕事をしながら、気軽に学び直しやキャリアアップのための学習ができる仕組みがあるとよい。
- 千葉労働局の「教育訓練給付制度」や、本市の「中小企業人材育成研修費補助金」など、学び直しに対して個人や企業を支援する仕組みを充実させているが、今後さらに使いやすい制度にすることが課題である。
- 生涯学習センターでは、女性等を対象とした「キャリアプランニング講座」などを開講する他、民間事業者と連携して、センター内においてeラーニング（オンラインでの動画学習サービス）を無料で提供している。子育てをされている方にとっては、自らの空いている時間で資格取得や就労・起業等につながる学びを始めるきっかけとなるなど、社会人が気軽に学びなおす機会として有効である。

### 【具体的な方策】

#### 1 生涯学習センター等でのキャリア教育を充実する

- ・生涯学習センター等において、キャリア形成力を高める学習機会を提供する。

生涯学習振興課

- ・民間事業者と連携し、eラーニング（オンラインでの動画学習サービス）を提供するなど、就労・起業等につながる学びを始める機会を広く提供する。

生涯学習振興課

#### 2 雇用状況などの情報提供及び支援制度の利用促進を積極的に行う

- ・各機関において個に応じた相談を充実させ、情報の提供方法等を検討する。

経済企画課

#### ■具体的な事例

##### [生涯学習センター]

- ・資格取得等に向けた学習相談への対応、千葉労働局等と連携した就労支援講座の実施。

##### [千葉労働局]

- ・非正規雇用の正社員化に向けた研修の実施。

##### [ポリテクセンター等]

- ・在職者を対象に、職業に必要な技能及び知識の習得を支援するための訓練を実施。

##### [大学等]

- ・各種講座の開設（スキルアップ、資格の取得など）。



### **3 就労を見据えたキャリア教育の実施**

- ・シニア・女性・若年者等の就労促進を図るため、対象別のセミナーを開催する。  
セミナーでは、同じ境遇で活躍している社員との交流を行い、具体的な仕事のイメージの形成のほか、業界・企業の魅力を知る機会の提供を行う。

経済企画課

### **4 中小企業の生産性向上を目指したキャリア教育**

- ・中小企業に従事する社員等の知識・技能の向上による生産性の向上を図るため、中小企業の経営者又は従業員が研修制度を利用した場合に、その経費を助成する「千葉市中小企業人材育成研修費補助金」制度を実施する。

経済企画課

### Ⅲ 参考

#### 1 キャリア教育推進連携会議 平成28年度委員名簿

(敬称略)

	氏名	役割	所属等(平成28年度)
1	鹿嶋 研之助	有識者	千葉商科大学 教授
2	池田 亘宏	小学校校長会	千葉市立緑町小学校 校長
3	布施 勝美	中学校校長会	千葉市立松ヶ丘中学校 校長
4	御園生 かおる	小学校キャリア教育担当	千葉市立白井小学校 教諭
5	山越 正人	中学校キャリア教育担当	千葉市立幕張本郷中学校 教諭
6	佐々木 敬朗	中学校キャリア教育担当	千葉市立おゆみ野南中学校 主幹教諭
7	前田 哲郎	市立高校キャリア教育担当	千葉市立稲毛高等学校 教諭
8	保倉 行敏	大学・専門学校等関係者	敬愛大学 副キャリアセンター長 兼キャリアセンター室長
9	鈴木 一雄	大学・専門学校等関係者	千葉大学 就職支援課 課長
10	原 寛志	大学・専門学校等関係者	ポリテクセンター千葉 所長
11	伊藤 大介	企業・産業界関係者	(株)伊藤工務店 代表取締役
12	加瀬 洋 (→課長補佐 神子真二)	企業・産業界関係者	千葉労働局職業安定部職業安定課 地方職業指導官
13	和崎 正二 (→副課長 竹内友宏)	企業・産業界関係者	JFEスチール東日本製鉄所 総務部総務室 副課長
14	安達 智子	企業・産業界関係者	イオン株式会社 グループ 人材育成部 部長
15	宇野沢 達也	企業・産業界関係者	(株)ウェザーニューズ 減災プロジェクト プロジェクトリーダー
16	武居 秀治	企業・産業界関係者	(株)キッツ 管理本部総務人事部部長

※(→)は平成28年度途中交代等

※平成27年度(第1回)からの交代委員は3名(No2・No3・No12)

#### 平成27年度(第1回)のみ参加の委員

(敬称略)

	氏名	役割	所属等(平成27年度)
2	鶴岡 久光	小学校校長会	千葉市立生浜小学校 校長
3	佐藤 邦道	中学校校長会	千葉市立千城台南中学校 校長
12	菅野 恵	企業・産業界関係者	千葉労働局職業安定部職業安定課 地方職業指導官

<平成28年度事務局> 教育委員会教育総務部 参事兼企画課長 大橋 美帆子  
教育委員会学校教育部指導課 担当課長 安部 浩一  
経済農政局経済部経済企画課 課長 柿崎 恵司

## 2 キャリア教育推進連携会議 協議の記録

**第1回推進連携会議** 平成28年3月14日(月) 15時00分～16時50分

### 議 事

- (1) 趣旨説明、キャリア教育基本方針(骨子案)
- (2) 調査報告
  - ①平成27年度キャリア教育実施状況(小・特別支援学校)及び職場体験実施状況(中学校)の調査結果
  - ②「企業が求める人物像」についてのヒアリング結果
- (3) 自由討議

**第2回推進連携会議** 平成28年6月30日(木) 14時00分～16時00分

### 議 事

- (1) 本日の趣旨説明(含第1回会議の論点整理)
- (2) 協議
  - ①協議1:「小学校段階でのキャリア教育について」
    - ・市内小学校での活動(含モデルプラン)
    - ・西千葉子ども起業塾 ・ものづくりマイスター
  - ②協議2:「中学校段階での副読本の内容改訂の方針について」
  - ③協議3:「中学校2年生での職場体験の改善の方針について」
  - ④協議4:「民間の手法を取り入れた研修について」

**第3回推進連携会議** 平成28年8月31日(水) 14時00分～16時00分

### 議 事

- (1) 本日の趣旨説明(含第2回会議の論点整理)
- (2) 協議
  - ①協議1:「高等学校段階でのキャリア教育について」 稲毛高校でのキャリア教育の現状と課題
  - ②協議2:「専門高等学校でのキャリア教育について」 県立高校でのキャリア教育の現状と課題
  - ③協議3:「大学でのキャリア教育について(Ⅰ)」 千葉大学での実践事例について
  - ④協議4:「大学でのキャリア教育について(Ⅱ)」 敬愛大学での実践事例について
  - ⑤協議5:「千葉市が推進する事業について」

**第4回推進連携会議** 平成28年12月16日(金) 10時00分～12時00分

### 議 事

- (1) 本日の趣旨説明(含第3回会議の論点整理)
- (2) 協議
  - ①協議1:「専門学校でのキャリア教育について」 国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校での現状
  - ②協議2:「社会人のキャリア教育について(Ⅰ)」 生涯学習センターでの活動の現状
  - ③協議3:「社会人のキャリア教育について(Ⅱ)」 ポリテクセンターでの能力セミナー等
  - ④協議4:「社会人のキャリア教育について(Ⅲ)」 敬愛大学での企業向け講座等
  - ⑤協議5:「社会人のキャリア教育について(Ⅳ)」 千葉市、労働局等の支援活動の現状

### 3 生涯を通じたキャリア教育のイメージ図

#### 今後の施策展開のイメージ

#### ① 社会人基礎力の育成

社会的・職業的自立のために必要な基礎的・汎用的能力（コミュニケーション能力、熱意・意欲、行動力・実行力など）を育成すること

#### ■教育課程における「キャリア教育」の位置づけの明確化

- ・点ではなく線としてつながったキャリア教育の展開（モデルプランを参考に各教科等で実践）
- ・学校教育全体を通して実社会における課題などをもとに探求型・課題解決型の学習の充実
- ・市立高校において課題解決型の学習やインターンシップの充実を図り、社会参画意識の醸成

#### ■職業体験活動の質的・量的な見直し

- ・小・中学校における職場体験等の在り方を産業界との連携体制をもとに見直し
- ・千葉労働局との連携を強化し、ものづくりに関わる情報を学校に提供
- ・「放課後子ども教室」「夏休みおしごと感動体験」や「中学生起業体験講座」等の充実

#### ② 進路指導

上級学校や職業への円滑な移行を指導・支援すること

#### ■将来を見通した進路指導

- ・キャリア教育主任研修会を開催し、新たなキャリア教育の指導計画を立案・実践・キャリア教育を担う教員の資質・能力の向上を図る（「課題解決型」研修プログラムの開発）
- ・産業界等外部の助言を受けた進路学習ノート等の改訂
- ・進学先での不適応が起こらないよう生徒や保護者に体験入学や学校説明会への参加を促進

#### ③ 職業教育

一定または特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成すること

#### ■県立高校との連携

- ・普通科以外の進路先についての十分な情報提供を実施
- ・県立高校と市内企業との連携を推進（普通科卒業生の就職率向上の方策を検討）

#### ■大学等との連携

- ・大学の特徴に応じた職業教育に対する支援、連携
- ・市内企業でのインターンシップ、合同企業説明会等の開催

#### ■社会人の学び直し

- ・生涯学習施設と大学・専門学校等との連携

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成すること（職業教育も含む）

就学前

小学生

中学生

高校生

大学・短大生  
専門学校生等

社会人

生涯を通じたキャリア教育

千葉市のキャリア教育～生涯を通じたキャリア発達の支援に向けて～  
(平成29年3月策定)

事務局 千葉市教育委員会学校教育部教育指導課  
千葉市経済農政局経済部経済企画課

連絡先（千葉市教育委員会学校教育部教育指導課）

〒260-8730 千葉市中央区問屋町1-35

千葉ポートサイドタワー11F

TEL 043-245-5914

Eメール kyoikushido.EDS@city.chiba.lg.jp